

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

気道潤滑去痰剤

アンブロキシール塩酸塩錠 15mg 「タカタ」

アンブロキシール塩酸塩錠
AMBROXOL HYDROCHLORIDE

剤形	裸錠
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	1錠中 アンブロキシール塩酸塩 15mg
一般名	和名：アンブロキシール塩酸塩 洋名：Ambroxol Hydrochloride
製造販売承認年月日 薬価基準収載 発売年月日	製造販売承認年月日：2019年1月9日(名称変更による) 薬価基準収載年月日：2019年6月14日(名称変更による) 発売年月日：1992年7月10日
開発・製造販売(輸入) ・提携販売会社名	製造販売元:高田製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	高田製薬株式会社 学術部 TEL:0120-989-813 FAX:048-816-4183 医療関係者向けホームページ https://www.takata-seiyaku.co.jp

本IFは2019年1月改訂の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構ホームページ <https://www.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IF と略す)の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事、医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、(独)医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページ(<http://www.info.pmda.go.jp/>)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。

- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[IF の作成]

- ①IF は原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2008」(以下、「IF 記載要領 2008」と略す)により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IF の発行]

- ①「IF 記載要領 2013」は、平成 21 年 4 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の利用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意して作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月)

目 次

I. 概要に関する項目	1	1. 警告内容とその理由	14
1. 開発の経緯	1	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	14
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	14
II. 名称に関する項目	2	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	14
1. 販売名	2	5. 慎重投与内容とその理由	14
2. 一般名	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	14
3. 構造式又は示性式	2	7. 相互作用	14
4. 分子式及び分子量	2	8. 副作用	14
5. 化学名（命名法）	2	9. 高齢者への投与	16
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	16
7. CAS 登録番号	2	11. 小児等への投与	16
III. 有効成分に関する項目	3	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	16
1. 物理化学的性質	3	13. 過量投与	16
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	14. 適用上の注意	16
3. 有効成分の確認試験法	3	15. その他の注意	16
4. 有効成分の定量法	3	16. その他	16
IV. 製剤に関する項目	4	IX. 非臨床試験に関する項目	17
1. 剤形	4	1. 薬理試験	17
2. 製剤の組成	4	2. 毒性試験	17
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	5	X. 管理的事項に関する項目	18
4. 製剤の各種条件下における安定性 ^{1, 2)}	5	1. 規制区分	18
5. 調整法及び溶解後の安定性	5	2. 有効期間又は使用期限	18
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	5	3. 貯法・保存条件	18
7. 溶出性	6	4. 薬剤取扱い上の注意点	18
8. 生物学的試験法	6	5. 承認条件等	18
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	6	6. 包装	18
10. 製剤中の有効成分の定量法	6	7. 同一成分・同効薬	18
11. 力価	6	8. 国際誕生年月日	18
12. 混入する可能性のある夾雑物	6	9. 製造販売承認年月日及び承認番号	19
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	6	10. 薬価基準収載年月日	19
14. その他	6	11. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	19
V. 治療に関する項目	7	12. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	19
1. 効能又は効果	7	13. 再審査期間	19
2. 用法及び用量	7	14. 投与期間制限医薬品に関する情報	19
3. 臨床成績	7	15. 各種コード	19
VI. 薬効薬理に関する項目	9	16. 保険給付上の注意	19
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	9	XI. 文献	20
2. 薬理作用	9	1. 引用文献	20
VII. 薬物動態に関する項目	10	2. その他の参考文献	20
1. 血中濃度の推移・測定法	10	XII. 参考資料	21
2. 薬物速度論的パラメータ	11	1. 主な外国での発売状況	21
3. 吸収	12	2. 海外における臨床支援情報	21
4. 分布	12	XIII. 備考	22
5. 代謝	12	1. その他の関連資料	22
6. 排泄	13		
7. トランスポーターに関する情報	13		
8. 透析等による除去率	13		
VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	14		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

アンブロキシール塩酸塩は、ドイツにおける塩酸ブロムヘキシンの代謝研究において、気道液分泌促進作用に高い活性を有することが発見され、開発された気道潤滑去痰剤である。

本邦では、1983年に錠剤が承認され、また、1987年に液剤、1989年にシロップ剤が承認され、発売されている。

プルスマリンA錠 15mg は、株式会社ローマン工業が 1991 年 10 月に製造販売承認を得て、高田製薬株式会社が翌年 7 月より発売している。2007 年 12 月に医療過誤防止の目的でプルスマリンA錠 15mg と名称変更した。本剤は 2015 年 12 月に株式会社ローマン工業から高田製薬株式会社に承継された。

なお、再度医療事故防止対策に基づき、販売名をプルスマリンA錠 15mg からアンブロキシール塩酸塩錠 15mg「タカタ」に名称変更し、2019 年 1 月に承認を得た。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- ・ 気道液の分泌亢進作用をあらわす。
- ・ 肺胞領域のクリアランスを亢進する。
- ・ 線毛運動の亢進作用をあらわす。
- ・ 痰の性状に影響を及ぼさないので、薄い痰あるいは濃い痰の喀出促進に有効である。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

アンブロキシソール塩酸塩錠15mg「タカタ」

(2) 洋名

Ambroxol Hydrochloride Tablets 15mg “TAKATA”

(3) 名称の由来

一般名による

2. 一般名

(1) 和名（命名法）

アンブロキシソール塩酸塩（JAN）

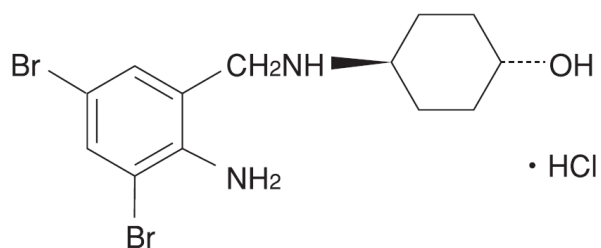
(2) 洋名（命名法）

Ambroxol Hydrochloride（JAN、INN）

(3) ステム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式: $C_{13}H_{18}Br_2N_2O \cdot HCl$

分子量: 414.56

5. 化学名（命名法）

trans-4-[(2-Amino-3,5-dibromobenzyl)amino]cyclohexanol hydrochloride (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

該当資料なし

7. CAS 登録番号

18683-91-5

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の結晶性の粉末で、においはなく、わずかに特異な味がある。

(2) 溶解性

メタノールにやや溶けやすく、水又はエタノール(99.5)にやや溶けにくく、酢酸(100)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

融点:約 235°C(分解)

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

pH:4.0～6.0(0.10g を水 10mL に溶かした液)

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

局外規「アンブロキシロール塩酸塩」の確認試験による


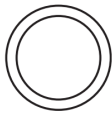

4. 有効成分の定量法

局外規「アンブロキシロール塩酸塩」の定量法による

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

品名	アンブロキシソール塩酸塩錠 15mg 「タカタ」	
性状	片面に二分割線のある白色の裸錠	
外形	表面径	 約 6mm
	裏面径	 約 0.08g
	側面径	 約 2mm
識別コード	TTS-117	

(2) 製剤の物性

硬度:29N 以上

水分(KF):6.0%以下

(3) 識別コード

TTS-117

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

1 錠中 アンブロキシソール塩酸塩 15mg

(2) 添加物

乳糖水和物、部分アルファー化デンプン、ステアリン酸マグネシウム、軽質無水ケイ酸

(3) その他

該当しない

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当資料なし

4. 製剤の各種条件下における安定性

(1) 長期保存試験(25±2°C)¹⁾

最終包装製品を用いた長期保存試験(25°C、36ヶ月)の結果、3年間安定であることが確認された。

PTP 包装 (3ロットの結果のまとめ)

	開始時	12ヵ月後	24ヵ月後	36ヵ月後
性状	白色で、片面に二分割線のある裸錠			
残存率(%)	100	97.6-99.5	99.0-100.3	98.3-100.0

(2) 加速試験(40°C、75%RH)¹⁾

PTP 包装 (3ロットの結果のまとめ)

	開始時	1ヵ月後	3ヵ月後	6ヵ月後
性状	白色で、片面に二分割線のある裸錠			
残存率(%)	100	100.1-101.0	98.7-100.4	98.8-100.4

(3) 無包装状態での安定性²⁾

	外観	含量	硬度	崩壊性
温度 (40°C、3ヵ月)	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
湿度 (30°C、75%RH、3ヵ月)	変化なし	変化なし	46.4 → 6.5N に低下	変化なし
光 (60 万 lx・hr)	黄白色に 変化	変化なし	変化なし	変化なし

5. 調整法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化(物理化学的変化)

該当資料無し

7. 溶出性³⁾

本剤は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められたアムプロキシール塩酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
15mg	20分	80%以上

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

- (1) 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液による呈色反応
- (2) 日局「塩化物の定性反応(2)」
- (3) 日局「臭化物の定性反応(1)」
- (4) 日局「紫外可視吸光度測定法」による

10. 製剤中の有効成分の定量法

日局「液体クロマトグラフィー」による

カラム： 液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲル(5~10 μm)

移動相： メタノール/pH3.0 の0.01mol/L 1-ヘプタンスルホン酸ナトリウム試液混液(3:2)

検出器： 紫外吸光光度計(測定波長:254nm)

11. 力価

本剤は力価表示に該当しない。

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

該当資料なし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

下記疾患の去痰

急性気管支炎、気管支喘息、慢性気管支炎、気管支拡張症、肺結核、塵肺症、手術後の喀痰喀出困難

慢性副鼻腔炎の排膿

2. 用法及び用量

通常、成人には、1回1錠(アンブロキシソール塩酸塩として15mg)を1日3回経口投与する。
なお、年齢・症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要
該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

ブロムヘキシシン塩酸塩

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

アンブロキシソール塩酸塩は、肺表面活性物質の分泌促進作用、気道液の分泌促進作用並びに線毛運動亢進作用により、気道壁の潤滑化をはかり、去痰作用をあらわす

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間⁴⁾

投与 2.5 時間後

(3) 臨床試験で確認された血中濃度(生物学的同等性試験)⁴⁾

生物学的同等性試験において、本剤は標準製剤(15mg 錠)との生物学的同等性が確認された。

クロスオーバー法により、健康成人男子 14 名に本剤 2 錠(アンブロキシソール塩酸塩として 30mg)を空腹時に単回経口投与し、投与前、投与後 1、1.5、2、2.5、3、4、5、6、9、12 及び 24 時間に前腕静脈から採血した。液体クロマトグラフィーにより測定したアンブロキシソール塩酸塩の血漿中濃度の推移及びパラメータは次のとおりであり、AUC 及び C_{max} について統計的評価を行った。

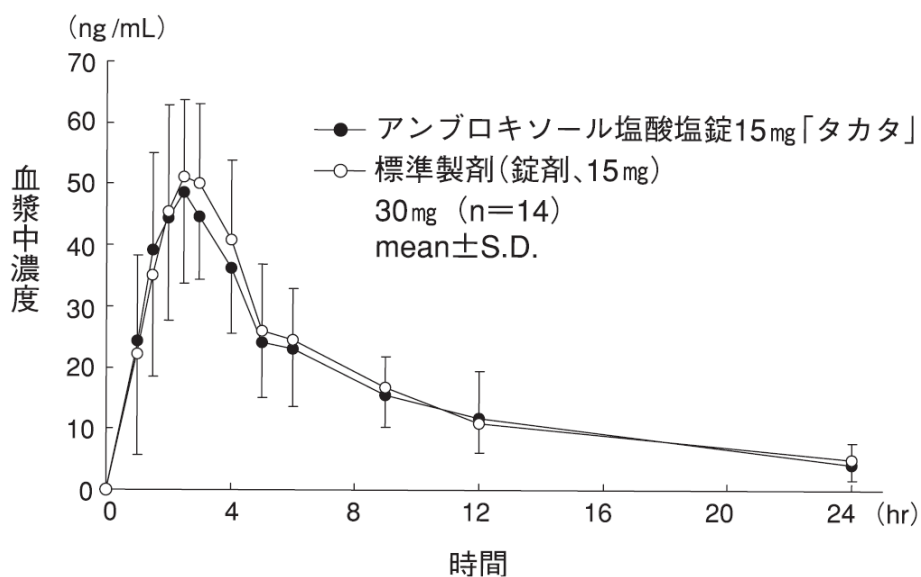


表 薬物動態のパラメータ

製 剤	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (ng/mL・hr)	Cmax (ng/mL)	tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
アンプロキシール塩酸塩錠 15mg「タカタ」	383.49 ± 141.22	52.75 ± 15.62	2.4 ± 0.5	4.6 ± 1.1
標準製剤(錠剤、15mg)	398.64 ± 106.71	56.55 ± 14.17	2.5 ± 0.5	4.3 ± 0.9

(mean ± S.D.)

※血漿中濃度並びに AUCt、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁中への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

(1) 腹膜透析

該当資料なし

(2) 血液透析

該当資料なし

(3) 直接血液灌流

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

添付文書に記載なし

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

添付文書に記載なし

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

添付文書に記載なし

7. 相互作用

添付文書に記載なし

(1) 併用禁忌とその理由

添付文書に記載なし

(2) 併用注意とその理由

添付文書に記載なし

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

重大な副作用(頻度不明)

1) ショック、アナフィラキシー様症状

ショック、アナフィラキシー様症状(発疹、顔面浮腫、呼吸困難、血圧低下等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) 皮膚粘膜眼症候群 (Stevens - Johnson 症候群)

皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

	頻度不明
消化器	胃不快感、胃痛、腹部膨満感、腹痛、下痢、嘔気、嘔吐、便秘、食思不振、消化不良(胃部膨満感、胸やけ等)
過敏症 ^{注)}	発疹、蕁麻疹、蕁麻疹様紅斑、瘙痒、血管浮腫(顔面浮腫、眼瞼浮腫、口唇浮腫等)
肝臓	肝機能障害(AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇等)
その他	口内しびれ感、上肢のしびれ感、めまい

注)症状があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。(太字)

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

「Ⅷ. 2. 禁忌内容とその理由」に以下の記載あり。

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

「Ⅷ. 8. (2) 重大な副作用と初期症状」に以下の記載あり。

1) ショック、アナフィラキシー様症状

ショック、アナフィラキシー様症状(発疹、顔面浮腫、呼吸困難、血圧低下等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと

「Ⅷ. 8. (3) その他の副作用」に以下の記載あり。

過敏症^{注)}：発疹、蕁麻疹、蕁麻疹様紅斑、痒疹、血管浮腫（顔面浮腫、眼瞼浮腫、口唇浮腫等）

注) 症状があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。(太字)

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
- (2) 授乳中の婦人には本剤投与中は授乳を避けさせること。[動物試験(ラット)で母乳中へ移行することが報告されている。]

11. 小児等への投与

添付文書に記載なし

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。[PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

15. その他の注意

該当資料なし

16. その他

該当しない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験（「VI. 薬効薬理に関する項目」参照）

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限:外箱等に表示(3年)

(「IV. 4. 製剤の各種条件下における安定性」参照)

3. 貯法・保存条件

遮光した気密容器に入れ、室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱いについて

該当資料なし

(2) 薬剤交付時の注意(患者等に留意すべき必須事項等)

(「VIII.14.適用上の注意」参照)

くすりのしおり:有り

患者向け医薬品ガイド:無し

(3) 調剤時の留意点について

該当資料なし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

アンブロキシール塩酸塩錠 15mg「タカタ」

PTP 包装 : 100 錠、1000 錠

8. 同一成分・同効薬

同一成分 :ムコソルバン

同効薬 :ブロムヘキシシム塩酸塩、L-カルボシステイン、植物性製剤(セネガ)

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製造承認年月日	2019年1月9日
承認番号	23100AMX00025

注：旧販売名：プルスマリンA錠 承認年月日：1991年10月12日

旧販売名：プルスマリンA錠15mg 承認年月日：2007年8月16日

11. 薬価基準収載年月日

プルスマリンA錠(旧販売名):1992年7月10日

プルスマリンA錠15mg(旧販売名):2007年12月21日

アンブロキシソール塩酸塩錠15mg「タカタ」(新販売名):2019年6月14日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

効能・効果追加年月日：1994年7月15日

追加内容：慢性副鼻腔炎の排膿

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

品質再評価：2001年10月3日

14. 再審査期間

該当しない

15. 投与期間制限医薬品に関する情報

該当しない

16. 各種コード

販売名	HOTコード(9桁)	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算コード
アンブロキシソール塩酸塩錠15mg 「タカタ」	103894111	2239001F1017	620389411

17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

XI. 文献

1. 引用文献

- 1) 社内資料(安定性)
- 2) (社)日本病院薬剤師会編:錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報改訂5版(医薬ジャーナル社):292, 2007
- 3) 社内資料(溶出性)
- 4) 社内資料(生物学的同等性)

2. その他の参考文献

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当資料なし

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

XIII 備考

1. その他の関連資料

該当資料なし

MEMO

製造販売

高田製薬株式会社

さいたま市西区宮前町203番地1